

# 歴史を 探る

第143回

## 五條市内の古墳（その2）

北宇智地域の向山丘陵一帯で、猫塚古墳（一辺約35mの方墳）を中心に近内古墳群が築かれた5世紀中ごろ。猫塚古墳から南へ約2km離れた丘陵の裾に、五條唯一の前方後円墳・今井1号墳が造られました。JR五条駅と北宇智駅の間の線路沿いにあり、車窓からも見る事ができます。

墳丘は2段に築かれ、現状で長さ約35m、高さ4.5mあります。昭和58年（1983）の発掘調査で、斜面の葺石と平坦面の円筒埴輪列が発見されました。周囲の田畑は埋没した堀の跡で、当初の墳丘はもう少し大きかったようです。

後円部頂上には現在、江戸時代以降の墓が建っていますが、その下に結晶片岩の板石を積み上げた2基の竪穴式石室があります。南側の石室内で、銅鏡1面、鉄刀2口、勾玉・管玉・小玉など約500個が出土しました。また、前方部頂上の土坑から鉄製甲冑一式と

折り曲げられた鉄剣、多量の鉄鏃が出土し、本来は木箱に納められていたとみられます。

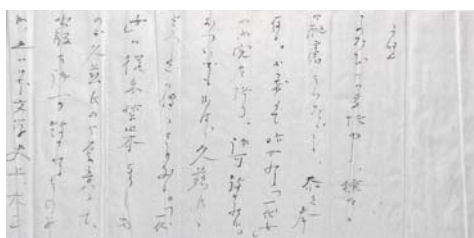
豊富な武器・武具は、猫塚古墳や後続の塚山古墳でも副葬され、被葬者の武人的な姿を表しています。しかし直径22.1cmの銅鏡や多量の玉類は今井1号墳だけで、前方後円墳という形式とあわせ、被葬者の地位が近内古墳群より高かったと考えられます。

古墳の立地にも注目です。JRと国道が並走するこの辺りは、南北から丘陵が迫る谷間のような地形で、古墳時代にも奈良盆地と紀の川河口の外港を結んだ「紀路」が通る要衝でした。谷の出入口に当たる五條東中学校の南方には吉野川が流れ、段丘の縁に古代の船着き場も想定されます。このような水陸の拠点を見下ろすのが今井1号墳であり、被葬者は近内古墳群の有力者とは別に往来・物流を監督する人物であったかもしれません。（続く）

文化財課学芸員 前坂尚志  
文化財課 ☎ 24・2011



上空から見た今井1号墳（左上が北）



与謝野寛が藤岡玉骨に宛てた手紙などを展示しています。

## 令和2年度夏季企画展 藤岡玉骨と与謝野寛・晶子

時 ~10月11日（日）9時~17時  
※月曜日は休館  
所 市立五條文化博物館  
¥ ▼一般:300円 ▼高校・大学生:200円 ▼中学生以下:無料  
周 市立五條文化博物館 ☎ 24-2011

## 10月 図書館だより

市立図書館（水曜休館）  
☎ 22-4133



図書館ブログ



蔵書検索

感染症対策のため、閲覧席の利用を中止しています。ご協力をお願いします。



すーくん  
©五條市立図書館

## 新刊本棚

おとなの本

### シニア六法



住田 裕子／監修・著  
KADOKAWA

介護トラブルやオレオレ詐欺にあつた時の正しい対処法、熟年離婚で「まさか！」に陥らないための知識、成年後見制度や相続の大切な基本…。シニア世代に必要な法律の大事なポイントをわかりやすく紹介する。

### 類 Louis



朝井 まかて／著  
集英社

いろいろからでてきた  
くろいて



西本 鶏介／文  
鈴木出版

だいぶつさま  
おまつりですよ



荻田 澄子／文  
アリス館

今日はほとけさまたちのお祭り。かきごおり、金魚すくい、お面屋さん。楽しいお店がいっぱいです。だいぶつさまがおばけやしきに行ってみると…？

こどもの本

## うとのの館から 見取り図案内其の百四拾巻 榮山寺と五條（14）

難波宮は、飛鳥時代に難波の長柄豊崎宮が造営されていた場所に、聖武天皇が、新しく造営した宮です。藤原豊成は、難波大臣とも呼ばれ、この難波宮に別邸を構えていました。

天皇は、橘諸兄の根拠地であった恭仁京に都を造営中に、藤原仲麻呂の進言で、近江の紫香楽宮に遷都し、ほどなく難波に宮を移しますが、これは、豊成の影響かと考えます。

遷都の理由の第一は、藤原広嗣の乱の後、諸兄の政権下で藤原氏の多くが処分され、仲麻呂ら反諸兄勢力の不満は最高潮に達していたことです。諸兄方にも、仲麻呂方にも偏らない難波宮は、安全な場所でした。

しかし、遷都決定に至る前、天平16年（744年）閏1月1日。天皇は、役人や、都の市場の人々に意見を尋ねています。難波に移りたい人は1人、平城京に戻りたい人は1人。多くは恭仁京にいたいと答えています。このアンケートを集約したのは、仲麻呂自身でした。同年1月11日。聖武天皇は難波宮に行幸しますが、仲麻呂は

留守役を命じられています。13日、有力な天皇候補であった聖武天皇の皇子で、井上内親王の同母弟、安積親王が難波宮に向かおうとして不審な死をとげていますが、これは仲麻呂による暗殺と考えられています。

当時の太上天皇（元・元正天皇）は聖武天皇の伯母で、吉野宮と同時に、難波宮の運営も進めた治世を行なっていました。第一線から引いて太上天皇の位に就いた後も、しばしば難波宮を訪れていました。病気がちな聖武天皇の代理で政務を行うこともありました。

また、難波津（港）は、遣唐使船が出港する港でもありました。船は、通常、安芸国（広島県）で造られ、瀬戸内海を使って難波津に運ばれます。4隻で一団を組みます。一隻には、100人以上が乗り込み、総勢は500人を超えるという大プロジェクトです。

そういつたいくつかの事情が重なり、皇都は、難波宮と定められることになりました。（つづく）

館長 川村 優理